

1 米国大学訪問調査 (2004 年度)

- UCLA 学生調査の実際 -

杉谷 祐美子
(青山学院大学)

1. 調査の目的

本研究プロジェクトにおいて開発した「大学生調査 (JCSS)」はカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (University of California, Los Angeles: UCLA) の高等教育研究所 (Higher Education Research Institute: HERI) から正式に翻訳の許諾を得て、同研究所の「大学生調査 (College Student Survey: CSS)」をもとに作成した。アメリカでは、学生の教育成果を定期的に評価する教育評価 (アセスメント) に関する研究が早くから盛んに行われており、CSS は全米規模で実施されている代表的なアセスメントの 1 つである。

2004 年度の訪問調査は、HERI が開発した複数のアセスメントの設計や手法の現状調査、各大学の教育研究活動に関する調査研究、すなわち IR (Institutional Research) 担当部局によるアセスメント結果の利用の実態調査、JCSS の開発に向けての HERI 担当者との打合せを目的とする。山田礼子、相原総一郎、杉谷祐美子の 3 名で、2004 年 9 月 13 日 (月) から 9 月 18 日 (土) にかけて、米国カリフォルニア州内に位置するカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (University of California, Los Angeles)、ロヨラメリーマウント大学 (Loyola Marymount University)、ペパーダイン大学 (Pepperdine University) を訪問した。

上記目的の結果は次章に委ねるとして、本章では HERI が開発・実施しているアセスメントの現状について報告する¹⁾。

2. 訪問調査の日程

訪問調査のスケジュール、訪問先ならびに面談者は以下の通りである。

9 月 14 日 (火) University of California, Los Angeles (UCLA) 訪問

場所: Moore Hall in Room 3034, UCLA Higher Education Research Institute

10:30 am - 12:30 pm HERI 関係者からの説明

“Welcome & Introductions”, “CIRP Background & Function”

Dr. Linda J. Sax, Associate Professor In-Residence, Director, Cooperative Institutional Research Program, Associate Director, Higher Education

Research Institute

“The Follow-up Surveys: CSS & YFCY”

Dr. Jennifer R. Keup, Director of Follow-Up Surveys, Cooperative Institutional Research Program

“The HERI Faculty Survey”

Dr. Jennifer A. Lindholm, Associate Director, Cooperative Institutional Research Program

“Operations Overview”

Mr. William S. Korn, Associate Director for Operations

他, Ms. Kit Mahoney, CIRP Survey Coordinator

2:00 pm - 3:00 pm UCLA の AIM 関係者との面談

Mr. Robert Cox, Manager, Office of Analysis & Information Management (AIM)

Dr. Kelly Walsh (AIM)

Dr. Ruan Hoe (AIM)

Dr. Marc Levis-Fitzgerald, Director, Undergraduate Evaluation & Research

3:30 - 4:00 pm HERI 関係者との面談

9月15日(水) Loyola Marymount University 訪問

場所: University Hall, UH-1775, Loyola Marymount University

2:00 pm - 4:00 pm Loyola Marymount University 関係者との面談

Dr. Joseph A. Merante, Associate Vice President for Academic Affairs

Dr. Elizabeth A. Stoddard, Assistant Vice President for Student Affairs

Dr. N. Brian Hu, Director of Institutional Research

4:00 pm - キャンパス・ツアー

9月16日(木) Pepperdine University 訪問

場所: Page Conference Room, Thornton Administrative Center (TAC),
Pepperdine University

2:00 pm - 3:30 pm Pepperdine University 関係者との面談

Dr. Norman M. Fischer, Associate Vice President for Planning and Assessment

Ms. Lily Pang, Director for Planning and Assessment

Mr. P. Scott Young, Coordinator for Planning and Assessment

Dr. Don Thompson, Associate Vice President for Planning, Information, and Technology

3．高等教育研究所（HERI）と共同大学調査研究プログラム（CIRP）

高等教育研究所(HERI)はUCLAの教育・情報学大学院(Graduate School of Education & Information Studies)に置かれた独立採算制の研究所である。その業務は研究, 評価, 情報収集, 政策研究など多岐にわたるが, なかでも研究プロジェクトは, アセスメントを主体とする共同大学調査研究プログラム(Cooperative Institutional Research Program: CIRP)と, 国立教育研究所(National Institute of Education: NIE)や財団などから研究助成を受けて行う研究プロジェクトの2つを大きな柱としている。

CIRPは「新入生調査(CIRP Freshman Survey)」, 「一年次生調査(Your First College Year: YFCY)」, 「大学生調査(College Student Survey: CSS)」の3つのアセスメントから構成される。このうち, 「新入生調査(CIRP Freshman Survey)」はその名称からもうかがえるように, CIRPのプログラム開始時よりずっと続いている調査である。同調査は後にHERIの初代所長を務めるアスティン(Alexander W. Astin)が開発し, 1966年, アメリカ教育審議会(American Council on Education: ACE)において始められた。その後, 1973年にCIRPがACEからUCLAの教育学大学院に移行した後も, アスティンは所長として長らくプログラムを率いてきた。いまや, 新入生調査は全米でも最も大規模かつ長期にわたって継続されている大学生調査といわれる。

こうした全米の多くの大学で利用されている学生調査を毎年, 企画運営し, 分析を行い, 結果を各大学にフィードバックするのがCIRPの業務である。経費は学生調査を利用する大学側が負担し, この収入がHERIの運営に充てられている。HERIでは各大学への分析結果をフィードバックするだけでなく, 学生調査で収集したデータに基づき独自に研究を行い, その成果を報告書として出版したりなどもしている。後述するように, 学生調査の実施にあたっては実際には多くの関係者が関わってはいるものの, HERIのスタッフ自体は, 10名程度の専任と, 同じく10名程度の非常勤や大学院生などである。

4．新入生調査(CIRP Freshman Survey)

「全米でも最も大規模かつ長期にわたって継続されている」と定評のある「新入生調査(CIRP Freshman Survey)」は, 1966年の開発以来38年間にわたって, のべ1700大学より1100万人の学生の参加を得た。現在も毎年, 700大学以上の学生40万人以上に調査を実施している。調査時期は主にオリエンテーション期間中であり, 入学したての新入生を対象としている。調査項目は学生の特徴について広く情報を得るために, 人口学的特性, 大学への期待, 高校での経験, 学位取得に対する熱意とキャリア・プラン, 学費の負担, 態度・価値観・人生の目標, 進学理由など包括的に設計されている。また, これら規

定の調査項目以外に各大学独自に設定する設問を 20 項目まで追加してもかまわない。

この新入生調査の利用方法は大きく分けて 3 つある。

第 1 に、時系列的な傾向をたどることである。例えば、現在の学生と 10 年前、20 年前の学生との間で、同じ設問に対する回答がどのように変化してきているかをみることによって、学生の傾向を把握することができる。

第 2 に、大学間、大学内の双方で比較をすることである。大学間比較では、設置形態、教育期間、宗教、入学難易度などにおいて類似したタイプの大学を選び出し、その大学群の平均値と比較することによって、自らの大学の特徴を理解することができる。表 3.1.1 は当該大学を選択した理由について、大学間比較を行った例である。これに対して、大学内比較は同一大学内において学生の属性に基づき調査結果を比較するものである。表 3.1.2 では性別で学生の自己評価の結果を対比させているが、他にも専攻分野の違いなどで同様の比較分析が可能となる。

表3.1.1 新入生が本学を選んだ理由

(数値は「とても重要」と回答した比率, %)	本 学	比較大学
学術的な評判	66	59
卒業生の就職状況	66	57
卒業生の難関大学院への進学状況	40	48
提供される財政援助	42	35
自分にとっての大学規模の適切性	38	50

出典：HERI提供資料

表3.1.2 性別による自己評価

(数値は「平均以上」あるいは「上位10%以上」と回答した比率, %)	男 性	女 性	差
身体の健康	67	48	-19
知的面での自信	70	52	-18
数理的能力	55	37	-18
情緒の安定	61	49	-12
学力	73	66	-7

出典：HERI提供資料

第 3 に、長期的な評価のための基礎データを供することである。これはアスティンが提唱した I-E-O モデルに基づいている。詳細は本報告書の山田の論稿を参照いただきたいが、I (Inputs) は学位取得に対する熱意、高校の成績、性別など学生の既得情報を、E (Environments) は教員との共同研究、専門分野、成績などの教育環境を、O (Outcome) は学位取得といった教育成果を意味する。I-E-O モデルによれば、教育成果 (O) はたんに教育環境 (E) だけに影響されるばかりではなく、学生の背景や資質といった既得情報 (I) にも左右される。そこで、学生の既得情報 (I) を把握し、できるかぎり I を統制し

たうえで、教育成果（O）が教育環境（E）の力によってもたらされているかどうかを検討することが必要になる。こういった分析は教育改革の成果などをみるときに有効な手法であり、この場合のIを入手するために新入生調査が用いられるのである。

5. フォローアップ調査（YFCYとCSS）

さて、このように「新入生調査（CIRP Freshman Survey）」が長期的な評価のための基礎データとして、いいかえれば学生の既得情報（I）として用いられるのであれば、当然のことながら、その後の教育成果（O）を検証するデータを収集しなければならない。このフォローアップ調査にあたるのが「一年次生調査（Your First College Year: YFCY）」と「大学生調査（College Student Survey: CSS）」である。前者は1年次の終了時点で、後者はそれ以降の学生を対象としてもっぱら3年次、あるいは4年次で実施される。すなわち、「新入生調査（CIRP Freshman Survey）」 「一年次生調査（Your First College Year: YFCY）」 「大学生調査（College Student Survey: CSS）」という順序になる。

これらフォローアップ調査では、調査項目の3分の1以上が先の新入生調査のポストテストに相当する。また、調査票は回答する学生を特定できるように設計されていることから、新入生調査あるいは他のデータとつなげることも可能である。各大学ではデータをつなげて、さらに深い分析を行ったり、個々の学生の状況を把握して学習指導の際に活用したりすることもできるだろう。あるいは、これらの調査を単独に用いるのでもかまわない。例えば、毎年参加大学の全国的な標準結果と比較するなどして、自らの大学の位置づけを探ることも利用の仕方の1つである。

YFCYはHERIが初年次教育政策研究センター（Policy Center on the First Year of College at Brevard College）と共同して2000年に開発した新しい調査である。毎年、約130大学の3万人以上の学生が参加している。この調査は学習面、情緒面の成長を重視し、学習上の適応と社会的適応、学習・生活・就労の経験、次年度の計画、行動形態や時間配分、自己概念および個々人の成功感などについて尋ねている。また、これ以外にも各大学が独自に設定した調査項目を30まで追加することが可能である。フォローアップ調査として、YFCYの結果と新入生調査の結果とを比較して、1年間の学生の変化を確認するような利用の仕方は表3.1.3のとおりである。

表3.1.3 CIRP-YFCY 学生の行動の変化

数値は回答した比率（％）	CIRP	YFCY	変化
週に6時間以上学習した	40.6	65.1	+24.5
ビールを飲んだ	44.8	57.2	+12.4
週に6時間以上社交的な付き合いをした	75.1	80.2	+5.1
学生の同好団体に参加した	15.5	10.0	-5.5
スポーツをした	50.8	33.9	-16.9
宗教的行事に参加した	82.7	57.2	-25.5
ボランティア活動を行った	87.4	60.1	-27.3

出典：HERI提供資料

CSS は新入生調査のフォローアップとして、1992年にHERIにおいて開発された。毎年800の大学から27万人以上の学生が参加している。主たる調査項目は、学業達成と取り組み、大学満足度、学生の関与、態度・価値観・人生の目標、認知的・情緒的発達などである。これ以外に各大学独自に設定できる設問は21項目である。YFCYと同様、フォローアップ調査としての利用方法は表3.1.4を参照してほしい。

表3.1.4 CIRP-CSS 自己概念の変化

(数値は同年齢の人たちと比べて「平均以上」あるいは「上位10%以上」と回答した比率、%)	CIRP	CSS	変化
自己理解	60.1	70.2	+10.1
自信(社交面での)	50.5	58.9	+8.4
文章表現の能力	54.7	62.2	+7.5
学力	79.4	80.7	+1.3
情緒面での安定	59.6	58.6	-1.0
身体の健康	61.9	55.2	-6.7
数理的能力	51.7	39.1	-12.6

出典：HERI提供資料

各種調査票は自記式の用紙によるものだけでなく、オンライン版でも利用できる。2004年度時点で、新入生調査の経費は参加費400ドル、学生1人あたり1.5ドル(ただし最初の1000件まで、その後は1人あたり1ドル)、YFCYは参加費450ドル、学生1人あたり2ドル、CSSも同じく参加費450ドル、学生1人あたり2ドルとなっている。これらの基本料金で受けられるサービスは、調査票の頒布、データ解析、各大学のプロファイル報告とフォローアップ調査報告といった報告書の提供までである。これら報告書のなかには、類似したタイプの大学群との比較結果、全国集計結果の分析なども含まれる。しかし、これ以外にオプションとして、追加料金を徴収して電子データファイルの提供、スプレッドシートによる報告、ピア・グループ報告(各大学で5名以上の比較対照学生群を選定する)、データの結合なども行っており、各大学のIRなどで独自に分析を深めることが可能となっている。各大学ではこれらのデータを利用して、自己点検評価報告、リテンション研究、学生募集活動、学生間の比較検討、戦略計画、さまざまな部署へのデータ提供、学生情報システムの構築、学生の発達と大学の影響力の測定、大学の各部署へのフィードバック、といった評価活動に取り組んでいる。

6. 学生調査の運営体制

これまで見てきたようにこれほどまでに大規模な大学生調査を実施するには、先のHERIのスタッフだけでは到底足りないことは容易に想像できる。実際には、HERI、およびUCLAのスキャニングセンター(Scanning Center)、個別機関から1000名以上の協

力を得て実施されている。最後に、新入生調査を例にとって、その運営体制を年間のタイムスケジュールに沿って示しておきたい。

< 1～2月 >

調査項目の削除，追加など，調査票を設計する時期。毎年，調査票の約 15% は改定しており，改定作業には 2～4 週間程度を費やす。その後，レイアウトを調整し，3月1日までに 5 万部の調査票を印刷して用意する。

< 3月 >

各大学への参加要請の時期。各大学の役職者（学長，研究部長，学生部長など）やこれまでの参加大学の担当者をはじめとして，約 2600 の機関に広報活動を行う。

< 3～9月 >

参加大学の登録時期。参加申込みがあれば，HERI はスキャニングセンターに参加大学の必要情報を逐次伝達する。

< 3～10月 >

個別大学，スキャニングセンター，HERI の 3 者による運営管理の時期。

個別大学は実施計画を立て，大学独自の調査項目の追加などを検討する。調査実施報告（Administration Report Form: ARF）も記入し，調査完了後は調査票とともに ARF をスキャニングセンターに送付する。

スキャニングセンターは送られてきた調査票の問題点などについて HERI に注意を呼びかける。データを読み込み，参照用のテストファイル作成後，最終版を確定する。調査票の返却のない大学のリスト化なども同時平行して進める。

HERI は個別大学に連絡を取って，リマインダーの送付，質問への回答，相談業務を行う。それとともに，スキャニングセンターと連絡を取り合って，データ読み込みの確認，センターから上がってきた問題の解決，未回収の大学への催促，最終締め切りの決定などを行う。

< 11～12月 >

データ処理の時期。HERI はスキャニングセンターからのデータファイルを最終確認する。全国標準（National Norms）報告書に掲載するサンプルを決定し，報告書を作成。個別大学のプロファイルを作成して報告書を配布する。

< 1～2月 >

残務処理の時期。HERI の研究者のための基礎データを整備し，オプションの「データサービス」にあたるデータ提供，報告書の作成などを行う。

注

1 本稿執筆にあたっては、訪問調査での面談、提供資料（HERI 担当者のプレゼンテーション資料、各種パンフレット等）の他、山田礼子『一年次（導入）教育の日米比較』東信堂、2005 年を参照した。